

## 看護学部の事業継続計画(BCP)作成と 事業継続管理(BCM) ー愛知県立大学の取り組みー

柳澤理子(愛知県立大学)

## 看護学部独自のBCPの必要性

- **独立キャンパス**(名古屋市守山区)で、災害対策本部(長久手市)から切り離される可能性
- 名古屋市**中心部**から**遠く**救援が遅れる可能性
- 立地上、土砂崩れや橋の倒壊、道路の寸断等により**孤立**し、**帰宅困難な学生、教職員**が出る可能性
- 実習等で**学外施設**にいたり、**移動中**の学生がいる可能性
- 実習施設も被災し、**実習が困難**となる可能性
- 国家試験受験資格取得のための**必修科目が多く**、融通が利きにくい

## COI 開示

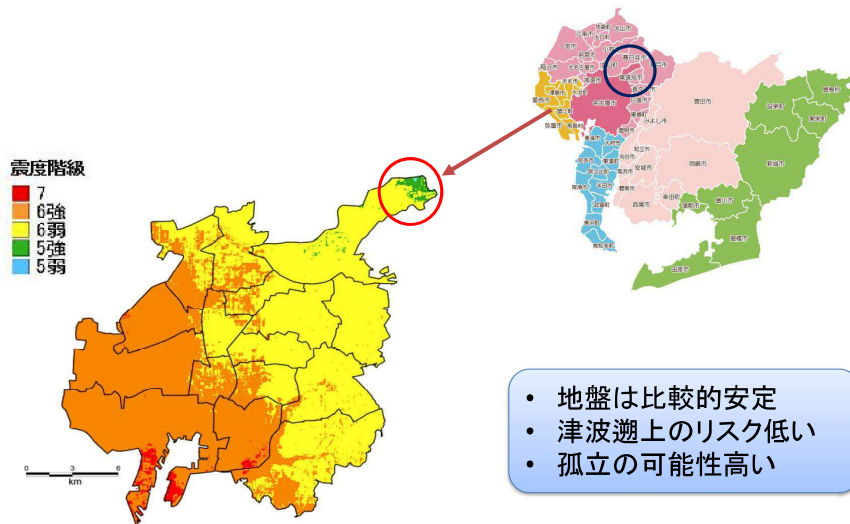
- 本講演に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体等はありません
- 本活動は、愛知県立大学学長特別研究費を受けて実施されました。

## BCP作成の方針

- 学生と教職員の安全を確保し、安心した学内生活を保障する
- 授業・実習をできるだけ早く再開し、学生の国家試験受験を保証する

**BCPの中核となる事業**  
教育、特に学部教育  
4年生の国家試験受験のための科目を優先する

## 南海トラフ地震における想定震度



あいちがみんネット、名古屋市ホームページ  
Aichi Prefectural University, School of Nursing & Health

## BCP作成方法

- 南海トラフ地震に焦点を当て、入手可能な情報から被害を想定、BCPの基本条件を設定。
- 地震時に学生や教職員に発生すると想定される事象を**被災物語**とし、閉じ込め、停電、火災発生、安否確認困難等566事象を収集。
- 6名を被災物語作成担当者とし、重複を削除、整理。
- 災害サイクルに応じて、準備期、クライシス～混乱期、回復期の3期別に、学生、教職員、もの(物品、施設)、計9種類の被災イベントを特定。各期の成果物を設定して班ごとに検討、看護学部BCPとして集約。

Aichi Prefectural University, School of Nursing & Health

## 南海トラフ地震における想定

- 南海トラフ地震: マグニチュード9.0、震度7
- 守山キャンパスにおける被害想定
  - 守山区の予想震度 **5強～6弱**
  - 津波遡上を含め浸水の可能性低い
  - 土砂災害や亜炭鉱跡による陥没の危険あり
  - 基本的に籠城、外への避難はしない**
  - 夜間参集は極力しない**
  - 住民の避難は近隣の指定避難所へ誘導
  - 高齢者、虚弱者等で避難を求める者は受け入れる

Aichi Prefectural University, School of Nursing & Health

## 結果: 作成した成果物一覧

災害サイクル	静穏期		急性期 3日	亜急性期 1週間程度	慢性期 2～3年
本BCP	準備期		クライシス期	混乱期	回復期 1か月程度
成果物	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入・準備品リスト</li> <li>To do list</li> </ul>		<b>【災害対策本部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害対策本部運営マニュアル</li> <li>組織機動アクションカード: 本部用</li> <li>救護・待機所マニュアル</li> <li>広報・渉外マニュアル</li> </ul> <b>【災害時に生じるイベント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント対応アクションカード 26種                             <ul style="list-style-type: none"> <li>-各イベント: 本部要員、発見者用</li> <li>-学習 : 教員用</li> <li>-学生 : 学生携行</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回復期マニュアル</li> <li>授業再開に備えた平時時の対策</li> </ul>	

Aichi Prefectural University, School of Nursing & Health

## 準備期

- 被災時におこるイベントを基にto do listを作成
- 事前準備、検討すべき課題、**備蓄品・必要物品、施設整備**を明確化
- 大学周辺の**避難所**等の情報確認と利用可否の検討
- 学生の**個人備蓄、安否確認システム**等を検討
- 具体的には、無線機、非常電源となる発電機、エレベータ内の閉じ込めに対応可能なEV椅子・非常用備蓄品セットなどを準備

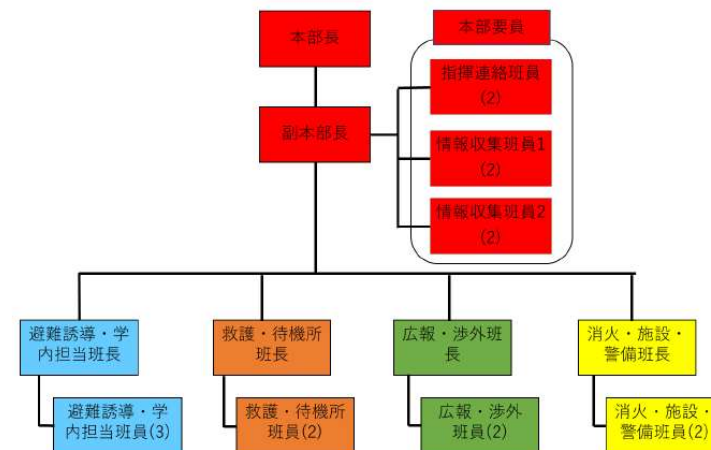
## クライシス～混乱期：組織機動班

- **災害対策本部運営マニュアル**の検討
  - 災害対策本部組織、各班の役割
  - 発災後の流れ、参集ルール
  - 対策本部レイアウト・ホワイトボードレイアウト
  - 授業担当教員用アクションカード
  - 各班アクションカード
  - 救護・待機所 等
- **救護・待機所マニュアル**
- **広報・渉外マニュアル**

## 学生個人備蓄(推奨)

- 長期保存水 500ml
- アルファ化米
- 温めなくてもおいしいカレー
- 好きなお菓子
- アルミブランケット静穏タイプ
- レインコート
- 防災用救助笛(呼子笛)

## 本部組織図



※ ( ) 内の数字は最少人数をしめす。



## 回復期

- 帰宅困難・通学困難等により学内で避難生活を送る学生、被災により経済的に困窮する学生等への対応
- 被災や交通網の寸断により授業に参加できない学生への教育保証
- 授業再開に向けた県外の大学、組織、団体との協力体制、退職教員のボランティア協力等
- 授業再開に向けての体制や手順を学年ごとにまとめたマニュアル作成

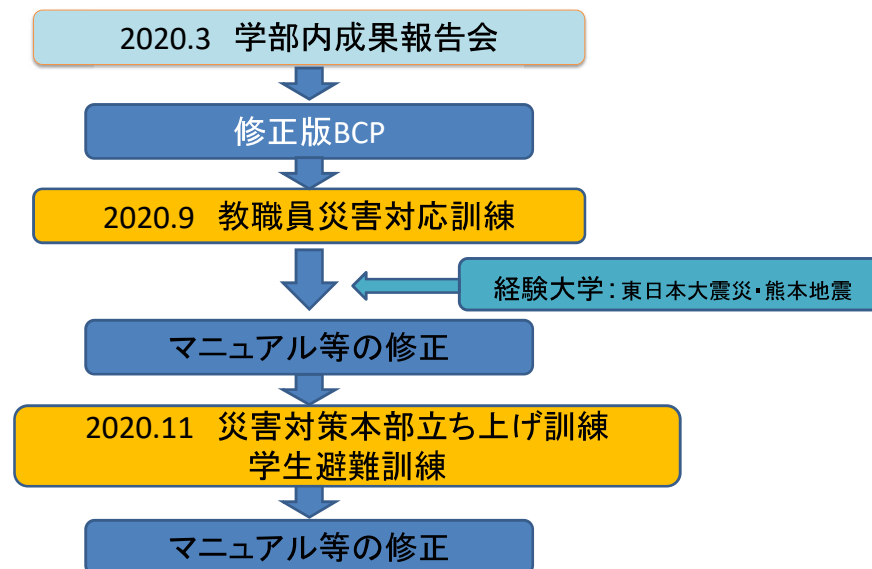
## BCPからBCMへ

- 作成した守山キャンパスBCPを試験的に運用し、導入、運用、見直しという継続的改善を含む事業継続マネジメント(BCM)上の課題を明らかにする

新年度の学部運営や防災訓練に反映

- 4年生：3月卒業を保証、講義より**実習**優先
- 3年生：10月**各論実習**を優先
- 2年生：10月**基礎実習**、2月**小児発達援助実習**優先
- 講義再開の目安：学生の**70%**が出席可能
- 出席できない学生のための**ビデオ**常時から録画
- **退職教員**のボランティア活用
- **大学への宿泊希望**学生への対応
- **経済的困窮**学生への対応
  - 全国助産師教育協議会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会等、看護領域の支援も活用

## 大規模地震災害のBCM



## 修正が必要だった課題

- 本部参集後の班再編成の不手際
- 小型無線機操作を含む連絡体制の不備
- 火災発生発見・通報の遅れ
- 残留者や負傷者への対応判断の迷い
- 残留者等の救出ルート情報の不達
- 電話対応の不備 など

最初の訓練は混乱

## その他の災害時マニュアル

1. 災害への備え
  - ① 大学での被災への備え
  - ② 自宅等での備えと被災時の対応
  - ③ 学外で災害に遭遇した時
2. 火災
  - ① 火災発見者および職員の対応
  - ② 教員の対応
  - ③ 地震等で災害対策本部が立ち上がっている場合
3. 風水害
  - ① 風水害への備え
  - ② 風水害が発生した場合(職員の対応)
  - ③ 風水害が発生した場合(教員の対応)
  - ④ 帰宅困難者がいる場合
4. 健康危機
  - ① 致死率又は感染力が高い重篤な感染症の発生
  - ② 大規模な集団食中毒の発生
  - ③ 毒劇物の混入、化学剤、生物剤等による集団健康被害の発生
  - ④ その他原因不明の健康被害の拡大

## 作成したマニュアル等

### 【クライシス期】

#### A 災害時対策マニュアル

災害対策本部組織・災害への備え  
火災、風水害、健康危機

#### B 地震発生時対策運営マニュアル

#### C 広報・渉外マニュアル

#### D 救護・待機所マニュアル

### 【回復期】

授業再開に関する申し合わせ

## 学んだこと

- 学部単位の小規模組織では、学部特性をふまえた被災物語を想定し帰納的にBCPを作成する方法は、実用的なアクションカード作成に有効。
- 本部立ち上げとその運用については、全体を俯瞰して手順を検討するため、従来型の演繹的手法が必要。
- BCPを教職員が一緒に作成することで、教職員全体の災害への意識を高めることができる。
- 学部長や役職者がいない状況での初動体制、教授会立ち上げまでの間の責任の所在を明確にしておく必要性。

演繹的方法  
(トップダウン)



帰納的方法  
(ボトムアップ)